



私はブラックマジシャンガール。
闇に潜み悪を成す魔のものを討つのが退魔忍である私の使命。
今日も跋扈する悪鬼を滅ぼさんとし、頭領に忍務を与えられる。

「退魔忍ブラックマジシャンガール、よくきてくれた。
今日は君に頼みたい事があって呼んだんだ。
君には最近巷で乙女たちを襲うと噂の悪しき魔道師を捕らえ、
ここに連れてきて欲しい」

「はい、お館様！この命に換えても必ず使命を果たして参ります！」

「ここが堕ちた魔導師の根城ね……！
油断しないよう警戒を怠らないようにしなげや……」

「例えばこんな油断とかかなつ？」

「なつー！いつの間になつ！」

「侵入者を感じする罫に関しては何得意なんだよねえ。
ほらつ、うかうかしてると次の罫が発動しちゃうよ？」

「くっ、一旦距離を取らないと……ツ！」



「うひゃひゃひゃひゃひゃひゃひゃー！引つかかった引つかかった！
畏カードだよおっく〜ん！
どいつもこいつも簡単にハマってくれてほんと助かるぜ〜〜！」

「これで人々を…！ひ、卑怯な…！
だめっ、回避も解除も間に合わないっ！」

「どっっておきのお楽しみルームへご案内だぜエ〜〜〜〜〜！」

「空間転移ッ？ああっ、きゃああああ〜〜〜〜〜！」



「うひゃひゃひゃひゃひゃひゃひゃひゃひゃひゃー引っかかった引っかかった！
罫カードだよおっく〜ん！
どいつもこいつも簡単にハマっててくれてほんと助かるぜ〜〜！」

「これで人々を…！ひ、卑怯な…！
だめっ、回避も解除も間に合わないっ！」

「どっっておきのお楽しみルームへご案内だぜエ〜〜〜〜〜！」

「空間転移ッ？ああっ、きゃあああああ…！」

「～♪～♪～♪～♪～♪～♪」



「...」

「ボクチンの特製肉部屋へようこそオっ！
久々に大物を招けてこいつらも喜んでるよオー！」

「うっ…なんて禍々しい…！
ここに街の人達を誘拐していたんですね！
大人しくみんなを解放しなさいっ！」

「ハア…？まだ立場をわかってない？
退魔忍ってほんとうに噂通りのヴァカ揃いなんだねエ」

「なっ…！武力行使されたいみたいですわ…！ならっ！」



「後悔しなさい！
黒・魔・導・爆・裂・破……ッ！
魔法がっ…発動しないっ…!?」

「ここは魔力を喰らう肉の檻なんだよオッ
お前ら退魔忍だっって例外じゃないッ！」

「う、ウン…そんな…」

「ここにハマった時点で終わりだよオッ
さあ、次はコツチの番だ…お楽しみ時間だよオン！」

「ひっ…いや…来ないでっ…やめてっ！」



「いやあーなにこれっー気持ち悪いっー！」

「しゅるしゅるしゅるっつと…グフフ、これで力でももう敵わないぞオッ
たっぷり可愛がってやるから覚悟するんだなあ！」

「やだっ…何をやる気なの…っそ…いやっ…やめてえー！」



「まずはその男を挑発してるデカ乳からだっ！
そら御開帳ウー！」

「ひらっ！やあっ！」

ト
リ
イ
ッ
ン

「ぐひひひひいい眺めだぞオ〜〜！」

品のない乳首しやがって…

退魔忍ってのはドスケベなカラダじゃないとなれねえのかあ？」

「んっ…んっ…んっ…ひどろ…いや…見ないで…！」

「まずはその男を挑発してるデカ乳からだっ！
そら御開帳ウ！」

「ひらっ！やあっ！」

ト
ン
ン
ン
ン
ン

「ぐひひひひ、いい眺めだぞオ〜〜！」

品のない乳首しやがって…

退魔忍ってのはドスケベなカラダじゃないとなれねえのかあ？」

「うっ…うっ…うっ…ひどら…いや…見ないで…！」

To be continued…♡

「いら感じに仕上がったな…そろそろメインディッシュだぜ」

「ほへえ…ま、まらっ…♡も…むりひら…♡」

「おらおら、ここからが本番だぜ。バテてちゃ困る」

はあっ

ハハハ

はあっ

「ふひひひ…刺激が脳天まで突き抜けるぞオ…一気に貫いてやるッー」

「苗床の分際で許しを請うなんてナマイキだツオ〜！
そらっつ、全身こね回してやるツ！脳ミソ溶かしてイッちまえツ！」

「あぎいらいらい♡上も下もなんてらめええええええ♡
あたまっ♡まっしるになってへえっ♡びっ♡ひいいらい♡♡♡」

本んどはあっ

はあっ

ボい

フッ

あッ

はあっ

シクシク

プアッ

ズブ

ズブ

「ハハハハハ！センマイ仕掛けみたいはビクビクしやがっつて！
これを見るのは何度目でも楽しいなア〜〜〜」

「んおおおおおおおっ♡おほおっ♡
オアあッ♡んぎいつ♡」

「もう何言ってるかわからないツ、もう限界かなアッ、
ボクチンに忠誠を誓うなら楽にしてやるぞ」

はあッ

ゴィ

あッ♡
♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

「ッ…♡アッ…♡だっだれ、
ちっ♡ちかっ♡誓いまっ♡」

がッ…♡んひいつ♡ひいつ♡

ズブッ

ズブッ



「~~~~ツ♡げほっ♡んげえっ♡はぶっ♡んぶっ♡」

「胎内に直接高濃度の魔毒原液を染み渡らせて、身も心もボクチンのモノになるよう漬け込んでやるゾ」

あざと

ゴい

あッ

ニッポッ

はあッ

ビッ

クッ

ズッ

クッ

マッ

「お母さん♡お母さん♡ハハハハハハ」



「それじゃあ、3日後ぐらいにまたきてやるよ。
ここじゃ死ねないから心配ないけど、一応壊れるなよオ、ケケツ」

「ふひー♡ふごおっ♡んごっ♡ふぼおっ♡」

「あーん♡」

「はあっ♡」

「ポッ♡ポッ♡」

「アッ♡」

「ハッ♡」

「クッ♡」

「クッ♡」

「クッ♡」

「クッ♡」

「ポッ♡」

「ポッ♡」

「ポッ♡」

「ポッ♡」

「ポッ♡」

「ポッ♡」

「ポッ♡」

「ポッ♡」

「ポッ♡」

「ポッ♡」

「あッ♡」

「あッ♡」

「あッ♡」

「あッ♡」

「あッ♡」

「あッ♡」

「あッ♡」

「あッ♡」

「あッ♡」

「あッ♡」

「はあっ♡」

「トッ♡」

「トッ♡」

「トッ♡」

「トッ♡」

「トッ♡」

「.....
「おおおおお♡おええっ♡ぶほおっ♡んぎっ♡」

ハッピーバースデー
おめでとう

おめでとう
ハッピーバースデー

ハッピーバースデー
おめでとう

ハッピー

おめでとう
ハッピーバースデー





